

少年^{じゆうねん}たんていのレンは、学校^{がっこう}でもいろいろなじけんをかいけしつてい
るよ！

★お話^{おはなし}が正しいじゅん番^{ばん}になるように、□に番^{ばん}のつづきを書^かこう。

朝^{あさ}、レンが友だちのきんた、リクと教室^{きょうしつ}で話^{はな}していると、
かりんが走^{はし}ってきて言^いいました。

「にわとりが一羽^{いちわ}いないの。きのう帰^{かえ}るときは、いたのに。」



かりん

つぎに、レンは、とびらをしらべました。かぎはしっかり
かかっている、こじあけたあとありませんでした。
ここからにげたり、さらわれたりしたわけではなさそうです。



レン

そこへ、にわとりをだいた先生^{せんせい}が、やってきました。
レンがすいりしたとおりでした。

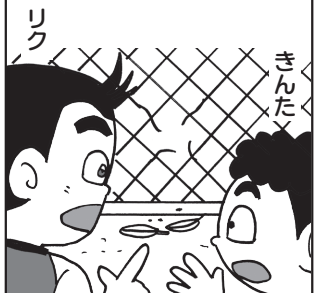
「手当^あてしてもらったので、もう大じょうぶですよ。」
先生^{せんせい}に言^いわれて、みんなはあん心^{しん}しました。



先生

それから、みんなで手分け^{てわけ}してまわりをしらべていると、
リクが金^{かね}あみに小さなあながあいているのを見つけました。
「そのあなは小さいから、にわとりは通^{とお}れないよ。」
と、きんたが言^いうと、リクが言^いいかえました。

「でも、ここに羽^{はね}とちがちょっとついているぞ。」



リク

きんた

そこで、みんなは、ししく小やにおかいました。
まず、レンは、ししく小やのまわりの足あとをしらべます。
さく夜雨^{やあめ}がふったので、足^{あし}あとは二人分^{ふにんぶん}だけでした。
小さいほうがりんの、大きいほうは大人^{おとな}のようです。



レン

それを聞^きいたレンが言^いいました。

「わかったぞ！ きつと、金^{かね}あみでけがをしたにわとりを
先生^{せんせい}がどうぶつびょういんにつれていったんだ！」



レン